



韓国の厳しい冬を暖めてくれた同僚の結婚式

안녕하세요(アンニョンハセヨ)! クレアソウル事務所の飯村です。今回の駐在員通信では、韓国の冬についてご紹介したいと思います。

韓国の冬といえば、日本に比べてとても寒いと思われる方が多いと思います。これまでに何度か最低気温が -10°C を下回るなど、茨城とは比べ物にならないほどの厳しい寒さを経験しましたが、今ではかなり慣れてきたように感じます。

韓国のように本来の気候が寒い国では、防寒対策がしっかりされているようです。建物の中に入ってしまえば、体が冷えるほど寒さを感じるような事はまずありません。住居にも「オンドル」と呼ばれる床暖房のような設備が整ったところが多く、足元からポカポカと暖めてくれます。また、チゲ(鍋)など辛くて温かい食べ物も多く、体の中から温まります。

それにしてもやはり外はとても寒く、街を歩く人々は本格的な防寒ジャケットを着ている姿が目立ちます。日本では、コートのフードを実際に被って歩く人は稀ですが、韓国ではフードが飾りではなく、おしゃれなお姉さんもファーのついたフードですっぽりと頭を覆います。一方、建物の中は暖房のせいであまり暑くないので、着る服は調整できるように何枚も重ねて着るように工夫しなければなりません。



ソウルの冬は寒くても雪が降るのは珍しいです

日本と違って旧暦である韓国では、日本のように12月末~1月にかけての年末年始の休みはなく、公休日は1月1日のみです。ただし、12月25日は聖誕節といって祝日になります。クリスマスシーズンになると、街中もイルミネーションなどで煌びやかなムードになりますが、日本ではクリスマス終了と同時に正月モードに切り替えられるのに対し、韓国では2月の旧正月までツリーなどもそのままになっているところがある場合もあります。

旧暦の正月である「ソルラル」は、年によって日が変わります。2015年は2月18日から20日までの3日間で、土日とあわせると5連休になります。この時期は日本の年末年始と同様に、街中が慌しくなり、地方へのUターンラッシュも激

しくなります。最近では、長い休みを利用して海外に旅行するという人も増えてきているようです。今年は円安の影響もあり、日本へ旅行に行くという方もかなり多いようです。

そんな寒さ厳しい中での韓国生活ですが、先日、心温まる出来事がありました。事務所の韓国人スタッフの結婚式に招待され、初めての韓国の結婚式に出席してきました。



新郎新婦の誓いの言葉



美しい伝統衣装を着てのペベク

韓国の結婚式は、日本とはスタイルが異なります。日本では、挙式、披露宴、二次会という流れが一般的かと思えます。韓国では、挙式（日本の披露宴に近い）のあとに親族のみで「ペベク（幣帛）」と呼ばれる儀式を行います。日本の披露宴は、食事をいただきながら長時間かけて行われますが、韓国では挙式の前に待機室で新婦（なぜか新婦のみ）と写真を撮り、30分程度の挙式を見たあと、別室に移動して食事（今回はバイキング形式でした）をいただきます。この時、関係のない人が入らないように受付時に受け取った食券を利用します。挙式を終えた新郎新婦は、この食事スペースにあとから来て、各テーブルに挨拶をして回ります。

その後、通常は親族のみでペベクを行います。今回は私たちのような外国人の招待客のために、特別にその様子を見られるように配慮してくださいました。伝統衣装に身を包んだ新郎新婦は、ウェディングドレスとはまた違った華やかさで、韓国の宮廷ドラマの中に引き込まれたような気持ちになりました。

ペベクは、新郎新婦から両親への挨拶の場であるのですが、新郎の両親が投げた栗とナツメを新郎新婦が布でキャッチして将来授かる子どもの人数を占ったり、「一生面倒を見ます」という意味で新郎が新婦を背負って部屋を一周したりと、独特な儀礼もあります。

今回参列した式は、約2時間ですべて終了しました。全体的に日本に比べて格式的なイメージはなく、式の進行も友人がするなどアットホームな雰囲気でした。

新婦は事務所でもいつもきびきびと働くしっかり者、新郎もハンサムでユーモアあふれる方で、とてもお似合いのカップルでした。2人が末永く幸せでいられるようお祈りいたします。